



平成24年4月17日

794年に発生した未知の巨大地震を確認

<概要>

- ・延暦13(794)年7月10日(旧暦)に未知の巨大地震が発生していたことを確認
- ・震源は明示されていないが、直後に四国を一周していた南海道が廃止されており、これが南海地震であった可能性を示す
- ・地震の規模は昭和南海地震クラスと推定される

<本文>

- ・延暦13年7月10日に未知の地震が発生していたことを確認しました。
- ・従来の歴史地震のカタログ(宇佐美龍夫『新編日本被害地震総覧〔増補改訂版〕』東京大学出版会、1996年)に載っていない地震です。
- ・南海地震は、慶長9年(1605)以降、平均114年間隔で発生していますが、これまで、古代の南海地震は天武13年(684)と仁和3年(887)が知られているのみで、その発生間隔は203年でした。
- ・天武13年と仁和3年の中間にあたる延暦年間のことを記載した歴史書『日本後紀』は全40巻のうち10巻のみが現存し、詳細な記録が残っていません。『類聚国史』と『日本紀略』に略文が残されており、『日本紀略』を精査したところ延暦13年7月10日条に「宮中並びに京畿官舎及び人家震う。或いは震死する者あり」との記述があり、この年の九月にかけて連続して地震が発生していたことがわかりました。
- ・震源は不明ですが、延暦15年には四国を一周していた南海道のうち、阿波(徳島)・土佐(高知)・伊予(愛媛)の海岸部を通っていた道路が廃止されており、この措置が地震と関連する可能性が考えられます。
- ・地震の規模は、仁和3年地震が巨大であるので、応力の蓄積を考えると、少し小型の昭和南海地震クラスかと推定されます。
- ・2012年3月3日 第28回条里制・古代都市研究会にて発表済み(於:奈良文化財研究所)

<お問い合わせ>

社会文化科学研究科准教授 今津勝紀
(電話番号) 251-7408
kimazu@cc.okayama-u.ac.jp